“家族みんなが笑顔で、赤ちゃんを迎える”
そんな周産期医療の提供をしています

医療に携わる職業においては、〝判断する〟ことが今後さらに求められていく。患者さんを診た際に、どんな病気が原因なのか、どんな検査をして、どんな治療を行うのか。常に〝判断する〟ことが求められる。医療界においてもＡＩ（人工知能）が取り入れられ始めているが、〝判断する〟ことの重要性は今後も変わらない。

産科は、特にイレギュラーな対応が多い職業。順調に経過していたお産が急に暗転することもよくある。〝今、何が起きているか〟がはっきりしていなくても、その時の状況、母体や胎児の状態、現状のスタッフの状況など、複数のことを同時に考え、〝判断する〟ことが求められる。

また、〝お腹の中の赤ちゃんを診ることができる唯一の存在〟が産科医だ。お腹の中の赤ちゃんも生きている。お母さんだけでなく、赤ちゃんにとっても最適な方針を〝判断する〟ことが最も大切なことである。

産科の看護師や助産師は、命の誕生という奇跡の瞬間をサポートする大切な存在。お母さん、赤ちゃんそれぞれに悩みは違うので、寄り添う姿勢が大切。産後のお母さんやご家族の笑顔、小さな赤ちゃんの寝顔を見ると、ついついスタッフも笑顔になってしまう、そんな充実した職業である。

いしい産婦人科醫院
住所／大分市下郡北3-434-2
TEL／097-569-7770
URL／https://www.ishii-mfm.jp/

◆設立／2018年12月
◆従業員数／26名
◆2026年採用状況／大卒・専門卒・高卒採用予定　※採用職種による

事業内容

妊娠・出産・育児に伴うサポート（入院や通院、母親学級、産後サポート教室など）

入社時に必要な資格

◆看護師・准看護師
◆助産師
◆医師　※すべて医療スタッフの場合

入社後に取得可能な資格

◆アドバンス助産師
◆医療事務

会社ではこんな仕事をしています！

妊婦指導

お産はゴールでもあり、家族にとっては新たなスタート。母親学級やバースプラン作成、おっぱい外来など、お産というゴールに向けて、また新たなスタートに向けて指導しています。

心が元気になれる食事の提供

食事は、お母さんとおっぱいのエネルギー源となるだけでなく、心も育むとても大切な時間です。入院中の心と体が満たされるよう、味も見た目にもこだわった食事を提供しています。

リラックスできる環境づくり

妊娠や出産に伴う通院・入院はリラックスして過ごしたいもの。院内では、木の温もりや陽の光を大事にした空間づくりで、お母さんが安心できる環境を提供しています。

入社前の不安と入社後の現実

人の命を扱う責任が怖い

▼

責任は常に持ち続けるべき

命を預かることは、確かに責任が重いです。しかし、人と人とのつながりで育まれていくものは自分の心も成長させてくれます。

夜勤の連続など、激務なイメージがあります…

▼

夜勤明けのお休みは意外と充実！

夜勤は勤務時間が長く大変な時もありますが、夜勤明けはお休みのように過ごすことができるので、平日にプライベートな時間が持てます。

職場の人間関係が心配です！

▼

同期は一生の仲間になる♪

辛いことがあっても、同期と励まし合い頑張っています。自分の判断が命に関わるため厳しい指導もありますが、自分の成長につながります。

Leader's interview　トップリーダーにインタビュー

Q クリニックとして特に力を入れていること

A それぞれのお母さんと赤ちゃんにとってより良い妊娠、出産、育児は何か、お母さんやご家族と、院長やスタッフが相談しながら行っています。どの方法が良いのかはそれぞれ違うので、希望を聞いた上で実現するためにどのようにしていくのか院長やスタッフがアドバイスするよう心がけています。

Q どんな若者に担ってもらいたいですか?

A 医療の仕事全般に言えますが、イレギュラーな対応の際に冷静に、適切な判断を求められることが多いです。もちろん経験も必要ですが、患者さんの状態が急に悪くなった時に自分が何を優先するのか、どのように行動できるのか、意識して学ぶ姿勢があるととても嬉しいです。

Q 仕事で一番大事にしていることは?

A “お母さんと赤ちゃん、ご家族にとって最適な選択は何か”です。お母さんや赤ちゃんによっては、M-FICU（母体・胎児集中治療室）やNICU（新生児集中治療管理室）など周産期医療体制が整った医療機関での管理が望ましい場合もあるため、大分県立病院などの高次医療機関の先生に相談しています。

院長
石井 照和さん

2008年より産婦人科医として大分大学医学部附属病院を始め、県内外の総合病院に勤務。その後2018年に大分市でいしい産婦人科醫院を開院し、現在に至る。